# よ

喉音にして複母音の一つ。もといお二音合して成りたるもの。

**よ** 夜(名) 暮より曉までの時刻。

**よ** 世。代(名) 〔一〕人間の生活して居るところ。●世界。●社會。●人世。〔二〕其人の生存して居る間。●時代。●時世。●生涯。●齡。〔三〕歷史上にて區別したる或る時期。○「神代」「南北朝の世」〔四〕其人の國または家を治むる間。●朝。○「仁德天皇の御代」「父の代」〔五〕其人の權威を專にする時世。○「今は我世」〔六〕佛教上にて云ふ過去、現在、未來の三世界。○「あの世」「この世」

**よ** 節(名) 竹、葦の類の節と節との間の空虛なるところ。

**よ** 餘(名) 〔一〕あまり。〔二〕ほか。

**よ** 予。余(代) われに同じ。

**よ** 四(數) 二と二を合はせたる數。●し。

**よ** (助動) 命令の詞。○「起きよ起きよ」「暫し待ち給へよ」

**よ** (後) よりの略。○萬葉「古へよ今の現に」

**よ** (感) 〔一〕呼掛の詞に用ふ。○「諸君よ諸君」〔二〕餘情を添ふるに用ふ。○千載「濱の野に生ふるなきなのわびしきは身をつみてだに人の知らぬよ」

**よゐ** 夜居(名) 〔一〕夜中に座し居る事。●夜の圓居。〔二〕夜番。●寐ず番。……〈雅〉

**よひィ** 宵(名) 〔一〕夜に入りて間のなき頃。〔二〕夜に同じ。

**よひィ** 醉(名) ゑひに同じ。

**よひィゐ** 宵居(名) 宵に起き居る事。●宵の圓居。○源氏「打ちとけたる宵居のほど」

**よいよい** (名) 病の名。中氣の類。

**よひィよひィ** 宵宵(名) 毎夜。

**よひィっぱり** 宵張(名) 夜遲くまで起き居る事。●夜更し。

**よひィね** 宵寐(名) 宵より早く寢る事。

**よゐのそう** 夜居僧(名) 夜番の僧。昔し臨時御祈禱の爲めに毎夜禁中に詰め居たるもの。

**よひィのみやうじ** 宵明星(名) 暮方あらはるゝ星の名。金星の一名。●ゆふづゝ。

**よひィやみ** 宵闇(名) 宵の間の闇。●夕闇。

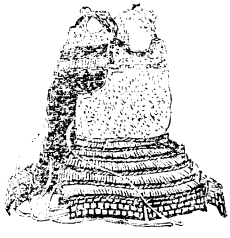
**よひィま** 宵間(名) 宵の時刻。

**よひィまどひィ** (名) 宵寐に同じ。●夕まどひ。○源氏「宵まどひもせず起き居たり」

**よひィごし** 宵越(名) 一夜を越ゆる事。○「宵越の肴」

**よひィざめ** 酔醒(名) 酔の醒め目。

**よろひィ** 鎧。甲(名) 昔の武具。革または鐵などにて作り戦に出づる時着用して身を固むるもの。●具足。〔圖〕



**よろひィ** 具(名) (一)よろふ事。●揃ふ事。(二)揃ひたるものを數ふる詞。○家長日記「屏風一よろひ」

**よろひィごほし** 鎧通(名) 短刀の名。鎧の上帶に佩ぶるもの。

**よろひィむし** 甲虫(名) 堅き甲を有せる虫の總名。

**よろひィむしゃ** 鎧武者(名) 鎧を着たる武者。●武裝したる軍人。

**よろひィびたたれ** 鎧直垂(名) 鎧下に着る直垂。〔圖〕

**よろひィびつ** 鎧櫃(名) 鎧を入るゝ櫃。●具足櫃。

**よろぼはッし** (形。形狀言シク活) よろぼふ有樣。

**よろぼふッ** (自動四段) よろ〳〵する。●よろめく。●よろける。

**よろよろ** (副) よろめく有樣。●蹣跚。(又)—よろ〳〵と。

**よろづ** 萬(數) まんに同じ。

**よろづ** (名) 魚の名。鱵(さより)の古名。

**よろづ** 萬(副) 總べて。●萬事。●何れも。●何事も。(又)—よろづに。△(形)—よろづの。……(雅)

**よろん** 輿論(名) 多數の人の議論。●公論。

**よろふ** (自動四段) (一)完備する。●足りとゝのふ。○萬葉「大和には群山あれど。取りよろふ天の香山」(二)鎧を着る。●具足する。

**よろく** (自動下二段) 足もとのよろ〳〵する。●よろめく。●よろける。

**よろこばし** 喜(形。形狀言シク活) 喜ぶべくある有樣。●嬉し。

**よろこぼふ**ッ　（自動四段）　喜ぶに同じ。（伊勢）

**よろこぶ**　喜。悅。歡（自動四段）　うれしく感ずる。●歡喜する。●喜悅する。

**よろこび**　喜。悅。歡（名）　〔一〕喜ぶ事。●歡喜。●欣喜。●喜悅。〔二〕賀。●祝ひ。●祝賀。●祝儀。●祝言。〔三〕謝禮。

**よろめく**　（自動四段）　よろ〻くする。

**よろし**　宜（形。形狀言シク活）　〔一〕よし。●可なり。〔二〕通例である。●中位である。●七八分である。●堪忍ころである。○枕「春毎に咲くとて櫻をよろしう思ふ人やはある」

**よろしなべ**　（副）　宜しく並びて。●よろしく。○萬葉「耳なしの青菅山は背面（そせも）の大御門に。よろしなべ神さびたてり」

**よろしく**　宜（副）　當に。●當然に。

**よろしめ**　（名）　よき女。●美女。（紀）

**よは**　餘波（名）　〔一〕大波の靜まりたる後に立つ小波。〔二〕文章にて本題の終りたる後に餘情を添ふる爲めの文句。

**よばひィ**　（名）　〔一〕呼ぶ事。〔二〕女を我妻に爲れと誘ひ寄する事。●男女忍びて相逢ふ事。○萬葉「人國によばひにゆきて」

**よばひィぼし**　（名）　流星の一名。○夫木「うらやまし誰をみそらのよばひぼし暮るれば出で〻光り知るらん」

**よばはワる**　呼（他動四段）　呼ぶに呼じ。

**よばなる**　世離（自動四段）　世間の事に違さかる。

**よばなし**　夜話（名）　夜中の談話。●よがたり。●やわ。

**よばん**　夜番（名）　夜中にする番。●寐ず番。

**よばふ**ホウ　呼（他動四段）　〔一〕呼ぶに同じ。〔二〕女を我妻に爲れと誘ふ。●男女忍びて相逢ふ。○伊勢集「同じ女をいふともなく言はずともなく年を經てよばふ男ありけり」

**よばく**　餘白（名）　文字を書くべき紙面の猶白く殘りたる部分。

**よばず**　（名）　他のものを用ひず其矢竹の末に作りつけたる矢筈。

**よに**　（副）　世の中にすぐれて。●よもや。●決して。●くれぐれも。○大和「文はよに見給はじ。たゞ言葉にて申せよ」

**よにん**　餘人（名）　我ならぬ人。●其他の人。

**よぼろ**　髑（名）　膝の折れ屈むところ。●ひかがみ。●

**よぼろ** 丁(名) ひざ。(和名抄) 髑髏を以て勞働する故の名。〔一〕人夫。●人足。○夫木「貢物はこぶよぼろし多かれば道も去りあへず逢坂の關」〔二〕特には古代の制にて男子十一歳より六十歳まで朝廷の課役に出づべき人民の稱。

**よぼろくぼ** 髑(名) よぼろに同じ。(紀)

**よぼろすぢ** 髑筋(名) 髑の筋。(宇治)

**よほど** 餘程(副) すぐれて。●大きに。

**よはう** 四方(名) しほうに同じ。●四角。○更科「大きなる石のよはうなる中に」

**よばう** 豫防(名) 兼てよりする防ぎ。●前方よりの用心。△(動)—豫防す。

**よべ** (名) 昨夜。●昨晩。

**よど** 淀(名) 川水の淀みたる所。

**よとり** 世取(名) 世繼。●跡取。●相續。

**よどる** (他動四段) 攀づに同じ。○謠曲「手に劍の樹なよどれば」

**よどほし** 夜通(副) 夜を通して。●通宵。●徹夜。

**よどむ** 淀(自動四段) 〔一〕流れの止まる。●流れの緩くなる。〔二〕事の滯る。

**よたう** 餘黨(名) 餘類。●殘黨。

**よたう** 夜盜(名) 夜中に出づる强盜。○謠曲「山賊夜盜」

**よどの** 夜殿(名) 寢室。(雅)

**よどこ** 夜床(名) 夜寢る床。(雅)

**よどこひ** 淀鯉(名) 山城の淀川にて取りたる鯉。

**よどこね** 夜床寢(名) 夜床に寢る事。○後撰「竹近く夜床寢はせじ鶯の鳴く聲きけば朝寐せられず」

**よどで** 夜戸出(名) 夜中家を出づる事。○萬葉「我妹子が夜戸出の姿見てしより心空なり土は踏めども」

**よどぎ** 夜伽(名) 病人のある時など夜中起きて伽する事。

**よどみ** 淀(名) 淀む事。●滯る事。

**よち** 輿地(名) 大地球。

**よち** 餘地(名) 餘りたる場所。●明地。●餘裕。

**よち** (名) 程よき年頃。(萬葉)

**よぢりすぢり** (副) からだをもがく有樣。(宇治)

**よぢる** 捩(他動四段) ねぢる。●もぢる。

**よぢかし** 世近(形狀言ク活) 終り近し。●死の近づ

きたる。（源氏）

**よちこら**（名）　同年輩の子等。●結婚するに適したる少女。○萬葉「よちこらと手たづさはりて」

**より**　寄（名）　寄る事。●集り。●集合。

**より**　縒（名）　縒る事。〔一〕こより。

**より**（名）　〔一〕度。●たび。●ときり。○信明集「あけて見し影めづらしき増鏡二より三より音こそ泣かるれ」〔二〕特には鷹狩にて鷹を放つ度數に云ふ。○夫木「きゞす立つ交野の冬の御鷹飼けふも幾より合はせ暮らしつ」

**より**（助動）　依りて。●故に。○和泉式部集「荒らさじと思ひし宿を花により萩の原ともなして見るかな」

**より**（後）　〔一〕出處をあらはす詞。●から。○「新橋より鎌倉まで」「一日より十日まで」〔二〕をに同じ。○源氏「前より行く水なば初瀬川といふなりけり」〔三〕にに同じ。○續後撰「山櫻空さへにほふ雲間より霞みて殘る有明の月」〔四〕比較をあらはす詞。○「砂の色雪よりも白し」〔五〕ならでほの意。○「風より外に訪ふ人もなし」

**よりいと**　縒絲（名）　よりを掛けたる糸。

**よりば**（名）　よりばの橋を見よ。○夫木「歸るさの袖ぬらすらし鵲のよりばにかゝる天の川波」

**よりばのはし**（名）　七夕の夜。鵲の羽を寄せ並べて天の川の橋とする事。○新勅撰「鵲のよりばの橋をよそながら待ち渡る夜になりにけるかな」

**よりどころ**　據（名）　たよりどころ。●根據。

**よりかかる**　依掛（他動四段）　もたれかかる。

**よりがみ**　憑神（名）　よりましに同じ。

**よりより**（副）　折折。●漸次に。●段々に。（又）―よりくに。○正統記「國々の兵よりくに打ち出でつれば」

**よりく**　餘力（名）　餘分の力。●餘暇。

**よりたけ**　寄竹（名）　水中に長くありて流れ寄る竹。古人は笛を作るによしとて多く之を用ひたり。○夫木「末の世と思ふもわびしより竹は切りて笛の音をも立てける」

**よりづな**　縒綱（名）　縒り合はせたる綱。（夫木）

**よりうど**　寄人（名）　官名。和歌所、記錄所、問注所などの役人。

**よりまし**（名）　生靈死靈など調伏する時。之を祈り附けて降參さするため假に設けて其靈を招き來り移らしむる物體。常に童子を用ひ又は人形をも用ふ。●よりびと。●よりこ。●よりがみ。●ものつき。

**よりふす**　寄伏（自動四段）　〔一〕近づき伏す。●添ひ伏す。〔二〕寐ころぶ樣になる。（雅）

**よりこ**　憑子（名）　よりましに同じ。

**よりて**（副）　その譯にて。●故に。

**よりあひ**　寄合（名）　〔一〕寄り合ふ事。●集會。〔二〕德川時代三千石以上の旗下にて無役の者の稱。

**よりあふ**　寄合（自動四段）　寄り集まる。●會合する。●集會する。

**よりき**　與力（名）　〔一〕力を添ふる事。●助力。〔二〕（動）—與力す。○空穗「天地佛神よりきし給はゞ」〔三〕德川時代奉行の配下にある役人。

**よりき**　寄木（名）　流れ寄りたる木。●流木。

**よりびと**　寄人（名）　〔一〕よりうどに同じ。〔二〕憑人。よりましに同じ。

**よる**　夜（名）　よに同じ。

**よる**　縒（他動四段）　ひねりて卷き附かせる。●よりを掛くる。●よぢる。

**よる**　縒（自動下二段）　おのれとよりのかゝる。●よぢれる。

**よる**（他動四段）　えらぶ。●撰擇する。

**よる**（自動四段）　〔一〕（因）もとづく。●由來する。●起る。〔二〕（賴）（依）依賴する。〔三〕（據）準據する。〔四〕（倚）よりかゝる。〔五〕（寄）ちかづく。●立ちよる。●集まる。〔六〕（憑）神又は生靈死靈などの人につく。

**よるね**　餘類（名）　同類の殘り。●殘黨。

**よるべ**　寄方（名）　依り賴む方。●たよりどころ。●よすが。

**よるべ**（名）　よるべの水に同じ。

**よるべのみづ**（名）　神社の前の瓶に盛りたる水。……之に神靈の寄り給ふが故に神水として信者の戴き飲むもの。○夫木「月影はさゐにけらしな神垣やよるべの水につらゝぬるまで」

**よるよる**　夜夜（名）（副）　毎夜。

**よるよる**　寄寄（副）　よりながら。●よりつゝ。

**よるのにしき** 夜錦(名) 史記に富貴不レ歸二故鄉一如二衣レ繡夜行一誰知レ之者と見ねたるより出でたる詞。◎はねなき喩。●有れどもかひなき事。

**よるのおとど** 夜大殿(名) 陛下の御寢所。

**よるのなすくに** 夜食國(名) 月世界の古名。(記)

**よるのつる** 夜鶴(名) 鶴は暗夜に子を思ひて鳴くものなりとて親の子を戀ひ思ふ喩に云ふ。

**よるのもの** 夜物(名) 夜具。(伊勢)

**よたり** 節折(名) 禁中にて六月十二月の晦日に行はるゝ大祓の夜。竹にて陛下の御身の丈より所々の寸法を取る事。之を以て玉體に代へ祓の式を行ふなり。此役を勤むる女官を節折の命婦といふ。

**よあうい** 餘殃(名) 惡德の報いとして來る殃。

**よをこめて** (副) まだ夜の明け切らぬ内に。●夜深く。○後撰「しのゝめに起きて見つれば櫻花まだ夜をこめて散りにけるかな」

**よは** 夜半(名) 〔一〕夜の眞中。●夜半。〔二〕夜に同じ。

**よはひ** 齡(名) 年齡。

**よわり** 弱(名) 弱る事。●衰弱。

**よわる** 弱(自動四段) 〔一〕病氣などにて體力の衰ふる。〔二〕事にあたりて困難する。

**よわがた** 弱肩(名) 肩に同じ。◎肩は骨のつがひめにて脆き故の名。○祝詞式「忌部の弱肩に太だすき取りかけて」

**よわたり** 世渡(名) 世を渡る業。●渡世。●生計。●生業。

**よわたる** 世渡(自動四段) 渡世する。●生計を營む。

**よわたる** 夜渡(自動四段) 夜を渡りゆく。○萬葉「夜渡る月の隱らく惜しも」

**よわたらひ** (名) 世渡りに同じ。

**よわむ** 弱(他動下二段) 弱くする。

**よわごし** 弱腰(名) 腰に同じ。◎よわがたを參考せよ。○徒然「譬ば(雉子の)弱腰を取る事なれば」

**よわめ** 弱目(名) 〔一〕弱きに近き方。〔二〕よわみに同じ。

**よわみ** (名) 弱きところ。●弱點。

**よわし** (形。形狀言ク活) 強しの反對。●もろし。●虛弱なる。●柔弱なる。

**よか** 四日(名) 〔一〕四晝夜。〔二〕其月の第四番目の日。

**よか** 餘暇(名) 暇の餘り。●暇。

**よかは** 夜川(名) 夜の川。……鵜川に云ふ。○六帖「篝火の影しうつればぬば玉の夜川の水は底も見えけり」

**よがる** 夜離(自動四段) 夜逢ふ事の遠ざかる。……男女の間に云ふ。○新後撰「かばらじといひしはいつの契にて夜がるゝ床に月を見るらん」

**よがたり** 世語(名) 〔一〕世の中の話。●世間の評判。〔二〕後世まで傳はる話。

**よがたり** 夜語(名) よばなしに同じ。

**よがれ** 夜離(名) よがるゝ事。○源氏「二條の院に夜がれ重ね給ふを」

**よかなり** (句) よかんなりの略。

**よがら** 世柄(名) 世の成行。●時勢。

**よがらす** 夜烏(名) 夜鳴く烏。

**よかん** 餘寒(名) 寒過ぎての寒氣。●殘寒。

**よかんなり** (句) よかるなりの轉。◎よくあるなり。

**よかんめり** (句) よかるめりの轉。◎よくあるめり。

**よかぐら** 夜神樂(名) 夜中に行ふ神樂。○謠曲「月の夜神樂」

**よかめり** (句) よかんめりの略。

**よかぜ** 夜風(名) 夜吹く風。

**よよ** 夜夜(名)(副) 毎夜。●毎晩。

**よよ** 世世・代代(名) 〔一〕何時の代も。●だいく。●せいく。〔二〕男女引き別れて別々に世を經る事。○伊勢「おのが世々になりにければ」

**よよと** (副) 泣く聲。●おいく。

**よよむ** (自動四段) 古來諸説あり。〔一〕もつれ舌にて物を云ふ。〔二〕よゝと泣く。〔三〕涎の垂るる。○萬葉「百年に老舌出でゝよゝむとも我は忘れじ戀は增すとも」

**よだち** 夜立(名) 夜の明けぬ中に出立すゐ事。●夜發。

**よだち** 夜立(名) 夜に入りて降る夕立。

**よたり** 四人(名) よにん。

**よだか** 涎(名) よだれの古名。(和名抄)

**よだか** 夜鷹(名) 〔一〕鳥の名。梟の類。〔二〕賣婬女の一種。辻君。(俗)

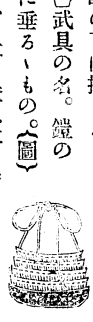
**よだだ** 夜唯(副) 夜中ひたすらに。●夜すがら。○古今「五月雨の空もとゞろに時鳥何をうしとか夜唯鳴くらん」

**よだだどり** 夜唯鳥(名) 時鳥の異名。

**よだれ** 涎(名) 小兒などの口より垂るゝ一種の液。

**よたれかけ**

涎懸(名)　〔一〕衣の涎に濡るゝを防ぐため小兒の頤の下に掛くるもの。〔二〕武具の名。鎧の胸の處に垂るゝもの。〔圖〕



**よたつ**

與奪(名)　與ふる事と奪ふ事と。

**よだつ**

役(自動四段)　えだつに同じ。(萬葉)

**よたう**

よとの處にあり。

**よたく**

餘澤(名)　死後まで殘りたる恩澤。

**よだけ**

(名)　節の多き竹。(記)

**よだけ**

ゆだけに同じ。衣に云ふ詞。(山家集)

**よだけし**

(形。形狀言ク活)　〔一〕たいそうなる。●かさ高なる。○山家集「煙立つ富士に思の爭ひてよだけき戀をするがへぐゆく」〔二〕究風なる。●物事の鬱陶しき程多き。○夫木「筑摩江の玉江の葦のよだけきもかりのみかきに下枯れにけり」

**よそ**

四十(數)　しじふ。

**よそ**

(名)　外の場所。●他所。●遠方。

**よそひ**

裝(名)　よそほひに同じ。

**よそいき**

(名)　よそゆきに同じ。

**よそほし**

(形。形狀言シク活)　威嚴のある有樣。●裝飾の立派なる有樣。○源氏「行幸に劣らずよそほしくいよ〳〵光をのみ添へ給ふ」

**よそぢ**

四十(名)　四十歳。

**よそりづま**

(名)　よそへらるゝ妻。●或物に比較せらるゝ妻。○萬葉「青嶺ろにいさよふ雲のよそりづまはも」

**よそる**

(自動四段)　よそふる。●なずらふる。●準ずる。(萬葉)

**よそほひ**

裝(名)　裝ふ事。●裝飾。●いでたち。

**よそほふ**

裝(他動四段)　〔一〕美しく見ゆる樣にする。●飾る。●裝飾する。〔二〕表面に其風をする。

**よそか**

四十日(名)　しじふにち。

**よそよそし**

(形。形狀言シク活)　うとゝし。●疎遠なる。

**よさう**

豫想(名)　兼てより想豫する事。●豫期。△(動)豫想す。

**よそふ**

裝(他動四段)　よそほふに同じ。

**よそふ**

(他動下二段)　なずらふる。●くらぶる。●譬ふる。

**よそごと**

(名)　よその事。

**よそぎき**　（名）　風聞。
**よそゆき**　（名）　外出。○「よそゆきの着物」
**よそめ**　（名）　外よりの觀察。●傍觀。
**よそみ**　（名）　外の所を見る事。●脇見。
**よそみみ**　（名）　よそぎゝに同じ。
**よそびと**　（名）　よその人。●他人。
**よそもる**　蹠（自動四段）　山の高大に聳ねてある。（字鏡）
**よつ**　四（名）　時刻の名。四つ時の略。
**よつ**　四（數）　二に二を合はせたる數。●し。
**よづ**　攀（自動上二段）　高き處に取り付く。●縋る。
**よつばひ**　四這（名）　兩手と兩足とにて這ふ事。
**よつどき**　四時（名）　大陰曆時代時刻の名。今の午前午後十時に當る。
**よづかはし**　（形。形狀言ノ活）　つゝさたる有樣。●色めかしい。●好色がましい。○源氏「よづかはしう輕々しき御名の立ち給ふべきを」
**よつだけ**　四竹（名）　踊をどる人の兩手に二枚づゝ握りて鳴らす割竹。
**よつつじ**　四辻（名）　十字形の辻。
**よつのへみ**　四蛇（名）　佛教にて風、火、水、土、を云ふ。○佛足石歌「よつのへみ五つのもの〳〵集まれる穢なき身をば厭ひ捨つべし」
**よつのとき**　四時（名）　春夏秋冬。●四季。
**よつのを**　四緒（名）　四緒琴（よつのをこと）の略。
**よつのをこと**　四緒琴（名）　琵琶の一名。
**よつのたきな**　四翁（名）　商山の四皓。すなはち漢の代に商山より出でゝ、惠帝を輔佐せし東園公、夏黃公、綺里季、角里先生の四人。（夫木）
**よつのたから**　四寶（名）　よつのたみに同じ。
**よつのたみ**　四民（名）　四階級の人民。即ち士農工商。
**よつのうみ**　四海（名）　しかい。●海内。●天下。
**よつのまこと**　四信（名）　佛教にて云ふ佛、法、僧、戒の四つ。
**よつのふね**　四船（名）　遣唐使の渡航する時その大使、副使、判官、主典の乘りなる各の船（萬葉）
**よづく**　（自動四段）　（一）世なるゝ。●世情に通ずる。（二）色めく。●色氣づく。●戀心つく。（雅）
**よづま**　夜妻（名）　夜間だけの妻。●忍び妻。●情婦。○後頼集「君がため獨生になれば夜妻さへ阿倍の市路に母子つむなり」
**よって**　因。依（副）　よりてに同じ。

**よつでかご**　四手駕籠(名)　駕籠の一種。粗末なるもの。

**よつでむすび**　四手結(名)　紐の結方の名。

**よつであみ**　〔圖〕

四手網(名)　網の一種。四隅を竹にて張りたるもの。

**よつあし**　四足(名)　〔一〕四本の足あるもの。〔二〕特には獸類の異名。〔三〕又は四脚門の略。〔四〕又は四足の机。

**よつあしもん**　四脚門(名)　添へ柱の四本附きたる門。

**よつぎ**　世繼(名)　〔一〕家の跡繼。●繼續者。●相續人。〔二〕歴史。

**よつゆ**　夜露(名)　夜降る露。

**よつめ**　四目(名)　紋の名。〔圖〕

**よつめがき**　四目垣(名)　垣の一種。丸竹を縦横にして四角に間の透く樣に作りたるもの。

**よつめぎり**　四目錐(名)　錐の一種。四稜なるもの。

**よつじろ**　四白(名)　馬の毛色の名。四足の白きもの。

**よつびく**　(他動四段)　能く引くの轉。◎弓を十分に引きしぼる。(保元)

**よつびき**　(副)　弓を十分に引固めて。○謠曲「よつびきひようと放つ矢に」

**よね**　米(名)　こめに同じ。

**よねん**　餘念(名)　其事以外の念慮。●他念。

**よねんなし**　餘念無(形。形狀言ク活)　他を顧みる事なく。●一心に。●熱心に。

**よねぐら**　米倉(名)　こめぐらに同じ。

**よねぶつ**　夜念佛(名)　夜行ふ念佛。○謠曲「夜ねぶついざや申さん」

**よな**　(感)　よとなと二つの感詞を重ねて殊に感情を強めたる詞。○平家「唯これより屋嶋へ參りて人に申さん事はよな」

**よなべ**　(名)　夜仕事。●夜業。

**よなか**　夜中(名)　夜の眞中。●夜半。

**よなが**　夜長(名)　夜の長き事。●夜の長き時節。

**よなよな**　(副)(名)　夜夜。●毎夜。

**よなき**　夜泣。夜啼(名)　小兒又は雞などの夜啼く事。

**よら**　(名)　夜に同じ。(萬葉)

**よらし**　(形。形狀言シク活)　よろしに同じ。(萬葉東歌)

**よむ**　讀(他動四段)　〔一〕文字、文章、などを見て意を解する。〔二〕讀む事を聲に立てゝ誦する。〔三〕歌を作る。〔四〕數を算ふる。

よんべ　（名）昨夜。（土佐）
よんどころなし　無據（形。形狀言ク活）　餘儀なし。●止を得ず。
よんのおとど　夜大殿（名）　よるのおとどに同じ。（雅）
よう　用（名）〔一〕用ふる事。〔二〕用事。
えう　幼（名）をさなき事。●幼少。●幼稚。
えう　要（名）〔一〕かなめ。●大切。●必要。〔二〕子細。●わけ。
えう　曜（名）〔一〕星。〔二〕一週間の日の各の稱。日曜、月曜の類。
えう　妖（名）〔一〕わざはひ。〔二〕妖怪。
やう　瘍（名）病の名。大きくして毒の強き腫物。
やう　洋（名）〔一〕大海。●大洋。〔二〕西洋の略。○「和漢洋」
やう　湯（名）塗の反對。……ゆうを見よ。
やう　樣（名）〔一〕有樣。●模樣。●樣子。〔二〕故。●子細。
やう　樣（副）次第に。●事に。○「いひけるやう」
（副）よくに同じ。
よふ　醉（自動四段）ゑふに同じ。
よういい　庸醫（名）藪醫者。●でき醫者。

よういい　用意（名）〔一〕心の用ひ方。●心がまへ。●心だて。〔二〕用心。●注意。〔三〕支度。●準備。●豫備。
ようい　容易（名）たやすき事。●手輕。●簡易。●簡單。（形）―容易なる。（副）―容易に。
やういろ　瑩色（名）染色の名。一斤染の一名。
やういく　養育（名）やしなひそだつる事。△（動）―養育す。
やうらうりやう　養老令（名）元正天皇の養老年間に成りたる法令。
やうろくごしゃ　羊鹿牛車（名）法華經に見えたる故事。或長者の家に火事出で來りたれば早く逃げよと子供等に云へども。はかなき遊に心を染めて出で行かんともせず。故に方便もて。さらば羊車鹿車牛車を作りて與ふべしと云へば。やう〳〵それに心引かれて此火宅を出でたりとの話にて。佛の方便もて衆生を救ふの喩。○謠曲「然れば羊鹿牛車に乘り。火宅の堺を離れずして。煩惱業苦の三つの綱に。繫がれ來ぬるはかなさよ」
ようば　用場（名）便所の一名。

**えうはい ようにん**　遙拜(名)　遠方より拜む事。△(動)―遙拜す。
用人(名)　武家にて金銀の出入などを掌る重役の名。

**やうぼ**　養母(名)　やしなひの母。

**ようばう**　容貌(名)　顏の樣子。●容顏。●顏付。

**ようべ**　(名)　昨夜。●よべ。●よんべ。

**ようべん**　用辨(名)　用を辯ずる事。●用達。

**ようち**　夜討(名)　軍陣の詞。夜中に敵を攻むる事。●夜襲。●夜攻。

**えうち**　幼稚(名)　えうせうに同じ。

**やうぢよ**　養女(名)　人の子を養ひて我娘とせたるもの。

**えうぢよ**　幼女(名)　幼稚の女。●少女。

**やうぢやう**　横笛(名)　よこぶえ。○謠曲「腰より やうぢやう抜き出だし。音もすみやかに吹き鳴らし」

**えうちゑん**　幼稚園(名)　幼兒を保育するところ。

**えうりやう**　要領(名)　肝要なるところ。●主點。

**えうりやく**　要畧(名)　要領を擧げて其他を省く事。

**やうりう**　楊柳(名)　木の名。やなぎ。

**やうりうらく**　永隆樂(名)　雅樂の曲名。

**やうりうくわんたん**　楊柳觀音(名)　觀音の一體。其慈悲の物に應ずること楊柳の春風に靡くが如きの意を表して佛像には枝を持ちたる處を畫かく。○謠曲「淸水寺のいにしへ。五色に見えし瀧波を。尋れのぼりし水上に。金色の光さす朽木の柳たちまちに楊柳觀音とあらはれ」〔圖〕

**えうたん**　拗音(名)　手音と複母音と二音合して成りたる音。ちゃ(茶)きゃく(客)しゅ(首)くわん(觀)の類。

**やうか**　入日(名)　〔一〕八晝夜。〔二〕月の第八日。

**ようかい**　溶解(名)　水に解くる事。△(動)―溶解す。

**えうがい**　要害(名)　〔一〕我には必要にて彼には防害な

る土地。●敵を防ぐに肝要の地。〔二〕要害の地に置く堡塞。

**やうかん** 羊羹(名) 菓子の名。小豆麪粉等に砂糖を入れて蒸し又は練りたるもの。

**ようがん** 容顔(名) 顔の形。●容貌。●容色。

**えうがく** 幼學(名) 幼時の學問。

**やうがまし** (形。形狀言シク活) 樣子ありげに見ゆる。●わけありそうな。●事々し。○盛衰「不參ほ中々やうがましとて」

**えうよ** 腰輿(名) たごしに同じ。

**やうやう** 永永(名) 永久の年月。○謠曲「末來永々を經るとても」

**やうやう** 揚揚(副) 誇らはしげなる有樣。●得意にて。(又)—楊々と。

**やうやう** 洋洋(副) 滿ち〳〵て溢るゝ程の有樣。(又)—洋々と。

**やうやう** 漸(副) 〔一〕次第に。●だん〳〵に。〔二〕からうじて。●やっとの事で。

**やうやう** (感) 呼び掛くる詞。●やあ〳〵。●やい〳〵。(字治)

**えうよう** 要用(名) 必要。●入用。

**やうやうし** 樣々し(形。形狀言シク活) 樣體らし。●勿體らし。(長明無名抄)

**ようだい** 容體(名) 病氣の樣子。●病狀。

**やうだい** 樣體(名) 〔一〕なりかたち。●姿。〔二〕有樣。●景況。

**ようだつ** 用立(他動下二) 他人の用に立つる。●貸す。

**ようだつ** 用立(自動四段) 用に立つ。

**ようだん** 用談(名) 用向の談話。

**ようだんす** 用箪笥(名) 箪笥の一種。書類などを入るゝ爲の小さきもの。

**ようたし** 用達(名) 〔一〕用を達する事。●用辨。〔二〕役所などに出入して買上品の用を辨ずる商人。

**やうれき** 陽曆(名) 大陽曆の略。

**ようざう** 熔造(名) 〔一〕金屬を熔かして鑄形に注ぎ入れ物の形を造る事。〔二〕造物主の天地を造る。……△(動)—熔造す。

**えうねん** 幼年(名) 幼稚の年齡。

**ようなし** 用無(形。形狀言ク活) せんなし。●せんかたなし。●ありがひなし。●役に立たぬ。●無益な。○伊勢「其男身をようなきものに

**やうらく** 瓔珞(名) 佛像などの裝飾に金屬珠玉を繋ぎて造りたるもの。〔圖〕

思ひなして」

**やうのもの** 樣物(名) 同樣の物。●同等の物。●類似の物。○源氏「必ずやうのものと爭ひ給はんもうたてあるべし」

**えうくわい** 妖怪(名) ばけもの。●へんげ。●惡魔。

**ようくん** 庸君(名) 凡庸の君主。●暗君。

**えうくん** 幼君(名) 幼少の主君。

**やうやく** 漸(副) やう〳〵に同じ。

**えうま** 妖魔(名) ばけもの。●へんげ。●妖怪。

**ようげん** 用言(名) 語學上の詞。語尾の活用すべき言語。

**えうげき** 要擊(名) 待ち迎へ擊つ事。△(動)―要擊す。

**やうふ** 養父(名) 他人にて我を子とし養ふ人。

**やうぶん** 養分(名) 食物中にて身體の營養になる部分。

**ようぶん** 洋文(名) 西洋の文章。

**ようぶんしやうう** 用文章(名) 日用文。●書簡文。

**やうふく** 洋服(名) 西洋服。

**やうご** 洋語(名) 西洋の言語。英語、佛語、獨語の類。

**やうごとなし** (形。形狀言ク活) やんごとなしに同じ。(源氏)

**やうこう** 洋紅(名) 繪具の名。舶來のべに。

**やうがう** 影向(名) 神佛の形を現はして出づる事。●出現。○謠曲「あら有難の影向や」

**やうごふ** 永劫(名) 佛教にて云ふ無窮の年月。

**ようさり** (名) よさりに同じ。○和泉式部集「ようさりになりて大臣殿より御迎へ奉り給ふ」

**ようさりつかた** (名) ようさりに同じ。

**やうさん** 養蠶(名) 蠶を飼ふ事。

**やうざん** 洋算(名) 西洋風の算術。●筆算。

**やうき** 樣器(名) 楊器。食物を盛る器。●盤。○源氏「白銀の樣器瑠璃の御盃」

**やうき** 陽氣(名) 〔一〕陽の氣。●賑やかなる事。〔二〕時候。

**ようぎ** 容儀(名) 顏姿。●なりふり。

**えうきよく** 謠曲(名) 能樂にて歌ふ歌曲。●うたひ。

**ようきん** 用金(名) 德川時代の詞。軍用などにて臨時に取立つる稅金。

**やうきん** 洋琴(名)　西洋風の樂器。ピヤノ。
**やうぎん** 洋銀(名)　西洋の銀貨。
**えうきゃく** 要脚(名)　錢の異名。
**やうきゅう** 楊弓(名)　遊戯に射る小弓の名。
**えうめい** 幼名(名)　えうみゃうに同じ。
**やうめい** 揚名(名)　官名のみ帶び居て其實務に從事せぬ人。○源氏「揚名の介」
**えうみゃう** 幼名(名)　幼年の時の名。
**ようし** 用紙(名)　其事に用ふる紙。
**やうし** 洋紙(名)　西洋風の紙。
**やうし** 養子(名)　他人の子を養ひて我子としたるもの。
**えうし** 夭死(名)　若死。●早世。
**ようじ** 用事(名)　仕事。●用務。
**やうじ** 楊枝(名)　食物の齒に挾みたるを除き又は朝起きて齒を研くための具。楊(やなぎ)または他の木を長く削りて一方を尖らしたるもの。
**えうじ** 幼兒(名)　幼稚の小兒。●をさなご。
**やうしょ** 洋書(名)　西洋の書物。
**えうせう** 幼少(名)　をさなき事。●幼稚。●幼弱。
**ようじょう** 勇勝(名)　雅樂の曲名。

**やうじゃう** 養生(名)　身を健康なるやうに保養する事。△(動)—養生す。
**やうしょく** 洋食(名)　西洋料理。
**ようじん** 用心(名)　〔一〕心を用ふる事。●用意。●準備。〔二〕警戒する事。△(動)—用心す。
**ようしゃ** 用捨(名)　容赦(名)　ゆるす事。●宥恕。△(動)—用捨す。
**えうしゅ** 幼主(名)　幼君に同じ。
**やうしゅ** 洋酒(名)　西洋酒の略。
**えうじゅつ** 妖術(名)　魔法。
**やうしゅん** 陽春(名)　春。●正月。
**えうもん** 要文(名)　經文中の肝要なる文句。(佛教)
**ようせずは** (副)　わるくすると。●もし間違うならば。●ひよっとすると。○源氏「其今姫君はようせずは實の御子こもあらじかし」
**やうす** 樣子(名)　有樣。●模樣。
**えうす** 要(他動サ變)　〔一〕入用とする。〔二〕待ちむかふる。
**えうす** 夭(自動サ變)　わかじにする。●早世する。
**やうず** 瑩(他動サ變)　みがきを掛けたる如く艷々しくある。○枕「赤紐いみじう結び下げていみ

じくやうじたる白き衣に」

**ようすゐ** 用水(名) 〔一〕用心の爲に備ふる水。〔三〕入用ありて引きたる水。

**よのおとど** 夜大殿(名) よるのおとゞに同じ。

**よのかため** 世の固(名) 國の柱石となりて世を治むる事。又は其人。……攝政關白の類。(源氏)

**よのつね** 世常(名) 世間一般。●尋常。●普通。●通例。

**よのつねなり** (句) いふもよのつねに同じ。○源氏「あさましとはよのつねなり」(又)—よのつねに。

**よのなか** 世中(名) 〔一〕世間。●社會。〔二〕相思ふ男女の中。●夫婦中。

**よのう** 夜能(名) 夜中に演ずる能樂。

**よのさが** 世性(名) 世の習。●世間ありがちの事。○源氏「憂きを知らずがほなるも世のさがと思ひ給へしを」

**よのめ** 夜目(名) 夜嶽る時の目。○「夜の目も合はず」

**よく** 欲。慾(名) 欲しと思ふ心。

**よく** 翌(名) よくじつ。よくげつ。よくねんに同じ。

**よく** (他動下二段。又四段) 避くる。●傍に身を退けて避くる。

**よく** 善。能。良。好(副) 〔一〕うまく。●よろしく。●上等に。●十分に。●結構に。〔二〕しば〳〵。●常に。

**よくい** 欲意(名) 欲心に同じ。

**よくばり** 慾張(名) 欲深き事。●欲深き人。

**よくばる** 慾張(自動四段) 欲心を恣にする。

**よくてう** 翌朝(名) 明くる朝。●次の朝。

**よくりう** 抑留(名) 抑壓して留め置く事。△(動)—抑留す。

**よくかい** 欲界(名) 佛教にて云ふ三界の一つ。欲心もて滿たされたる想像の世界。

**よくやう** 抑揚(名) 文章演說などの力を強むる爲めに一たびは揚げ一たびは抑へて言ふ事。

**よくだちに** 夜降に(副) 夜の更くる時に。●深更に。○顯季集「よくだちに千鳥しば鳴く久木おふる淸き河原に風や吹くらん」

**よくねん** 翌年(名) 明くる年。●次の年。

**よくげつ** 翌月(名) 明くる月。●次の月。

**よくあつ** 抑壓(名) 抑へ付くる事。●壓制。△(動)—抑壓す。

**よくめ** 欲目(名) 吾身に關りたる物事の善く見ゆる偏頗心。

**よくしつ** 浴室(名) 湯殿。●風呂場。

**よくじつ** 翌日(名) 明くる日。●次の日。

**よくしん** 欲心(名) 欲の心。

**よくす** 横臼(名) よこうすの約。◎横平たく作りたる臼。(記)

**よくす** 浴(他動サ變) 入湯する。●湯水をあびる。

**よや** (助動) 命令の詞を重れたるもの。○徒然「助けよや猫股。よや〳〵と叫べば」

**よやく** 豫約(名) 品物の賣買に云ふ詞。兼てより約束し置く事。△(動)—豫約す。

**よまひごと** (名) 迷ひ言をこぼす事。

**よまはり** 夜廻(名) 夜中巡廻して非常を警むる事。●夜番。

**よまつり** 夜祭(名) 夜中にする祭禮。

**よまぜ** 夜交(名) 一夜置き。●隔夜。○盛衰「夜まぜに參りて給仕せよ」

**よけい** 餘計(名) 計算の餘分。●餘り。

**よけい** 餘慶(名) 善德の報いとして來る幸運。

**よげに** (副) よさそうに。●こゝろよさそうに。○源氏「いとよげに言ひつゞく」

**よけん** (自動) 善からんに同じ。○催馬樂「御肴に何よけん」

**よけん** 豫言(名) 兼てより未來の吉凶など言ひ置く事。●神意を世人に示す事。

**よげんじゃ** 豫言者(名) 豫言を爲す人。●神に代りて其旨を世に告ぐる人。(基督教)

**よけく** (副) 善くに同じ。○萬葉「筑波嶺のよけく(よくある)を見れば」

**よぶ** 呼。喚(他動四段) (一)聲にて招く。●招く。●招待する。(二)稱ふる。●名づくる。○「名をば太郎と呼びけり」

**よふかし** 夜更(名) 夜を更かす事。●夜遲くまで眠らずに居る事。

**よぶかし** 夜深(形。形狀言ノ活) 夜の深さる。●夜の更けたる。○古今「五月雨に物思ひ居れば時鳥夜ぶかく鳴きていづちゆくらん」

**よぶね** 夜船(名) 夜漕ぐ船。

**よぶん** 餘分(名) 餘りたる部分。●餘計。

**よふけ** 夜更(名) 夜の更けたる時。●深夜。●深更。

**よぶこ** 呼子(名) 呼子笛の略。

**よぶこどり**　呼子鳥(名)　春の深山にて人を呼ぶが如き聲して鳴く總べての鳥。……古來諸説ありて鳩なりかっぽう鳥なりなど云へど何れも偏したる考なり。唯鳴く聲によりおほよそに呼びだる名と見てあるべし。○古今「遠近のたづきも知らぬ山中に覺束なくも呼子鳥かな」

**よぶこぶえ**　呼子笛(名)　人を呼ぶ合圖に用ふる小さき笛。

**よこ**　横(名)　〔一〕正面ならぬ所。●側面。〔二〕縱に對していふ詞。左右への廣さ。●幅。〔三〕横糸。

**よご**　豫後(名)　病氣にいふ詞。其病勢の未來の經過。

**よこいと**　横絲(名)　織物の縱糸に十文字をなしたる糸。●ぬき。

**よごろ**　夜頃(名)(副)　此頃の夜。●數夜。○月清集「吳竹の葉末にすがる白雪も夜頃經ぬれば氷とぞなる」

**よこばしる**　横走(自動四段)　横に走る。

**よごと**　壽詞。賀辭(名)　〔一〕祝の言葉。●祝言。〔二〕特には大嘗會の時神前に申す詞。(古)

**よこどぢ**　横綴(名)　書籍帳面などの横長き形に綴りたるもの。

**よこどり**　横取(名)　横より差出て奪ひ取ることいふ。●横奪。

**よごる**　(自動下二段)　汚るに同じ。

**よこほる**　横(自動四段)　よこたはるに同じ。○土佐「東の方に山のよこほれるを見て」

**よこがほ**　横顔(名)　側面より見たる顔付。

**よこがみ**　軸(名)　車の軸。(和名抄)

**よこかぜ**　横風(名)　横樣に吹き來る風。

**よこたはる**　横(自動四段。又下二段)　横樣に倒るゝ。●横になる。

**よこたふ**　横(他動下二段)　横たはらしむる。●横にする。

**よごれ**　(名)　汚れに同じ。

**よこづな**　横綱(名)　相撲にて大關中の或者に特に授くる綱。注連の如く幣を附けて廻しの上に締むるもの。

**よこね**　横根(名)　病の名。一種の腫物。

**よこね**　横寢(名)　横樣に寢る事。

**よこなまり**　訛(名)　なまりに同じ。

**よこなまる**　訛（自動四段）　なまるに同じ。

**よこなみ**　横波（名）　横様に打寄する波。

**よこむき**　横向（名）　横を向く事。

**よこく**　與國（名）　同盟國。

**よこぐも**　横雲（名）　〔一〕横様に棚引く雲。〔二〕特には明方東の空に棚引く雲。◆明方。

**よこや**　横矢（名）　横より射る矢。

**よこやり**　横槍（名）　〔一〕横より突入れられたる槍。

**よこやま**　横山（名）　〔一〕横に長き山。〔二〕山。

**よこぶえ**　横笛（名）　笛の一種。横様に持ちて吹くもの。◆わうてき。◆ふゑ。

**よこぶぎょう**　横奉行（名）　徳川時代裁判の陪席する役人。

**よごころ**　世心（名）　色情。◆色氣。◆戀心。（雅）

**よごごと**　横言（名）　傍より妨害する言語。◆邪魔口。◆讒言。○萬葉「かきほなす人の横言しげきかも」

**よごゑ**　夜聲（名）　夜立つる聲。

**よこて**　横手（名）　横の方。

**よこで**　横手（名）　拍手する時兩の掌を横にする事。○「横手を拍つ」

**よこあめ**　横雨（名）　横様に降り懸る雨。○夫木「窓打つも風に從ふ横雨の音いくたびか降りすさぶらん」

**よこさ**　（名）　横様の略。◎よこしま。◆不正。○「横さの道」

**よこざ**　横座（名）　上座。◆上席。（雅）

**よこさらふ**　（自動四段）　横に行く。（記）

**よこさま**　横様（名）　横の方。◆横。（形）―横様なる。（副）―横様に。

**よこさまあめ**　横様雨（名）　よこあめに同じ。（源氏）

**よこさめ**　横雨（名）　よこあめに同じ。

**よこさびの**　（名）　侍烏帽子に用ふる纓の名。〔圖〕

**よこさびのえぼし**　（名）　侍烏帽子の一名。

**よこぎ**　軫（名）　車の後の方に横様に架したる木。

**よこぎる**　横切（他動四段）　横様に通り過ぐる。

**よこめ**　横目（名）　横様に他の物を見る事。

**よこめつけ**　横目付（名）　徳川時代に士民の非違を監督する役。

**よこみ**　横見（名）　横を見る事。―わきみに同じ。

**よこみち** 横道(名) 〔一〕横の方に入り込む道路。〔二〕本道の外の道。●脇道。●邪道。

**よこし** (名) 脾の臓。(和名抄)

**よごし** 夜越(名) 一夜を越す事。

**よこしぐれ** 横時雨(名) 横樣に降る時雨。

**よこしま** 邪(名) 心の正しからぬ事。●不正。△(形)—邪なる。(副)—邪に。

**よこじま** 横縞(名) 横に織り出し又は染め出したる縞。

**よごもりに** 夜籠に(名) 夜深く。○萬葉「倉橋の山を高みか夜ごもりに出でくる月の光ともしき」

**よごもる** 夜籠(自動四段) 夜の末のまだ殘りてある。○重之集「しのゝめに朝の原を越ねくればまだよごもれる心地こそすれ」

**よごもる** 世籠(自動四段) 年齡の末のまだ長くある。●年のまだゆかぬ。(源氏)

**よこもじ** 横文字(名) 横樣に書く西洋の文字。●横文。

**よこす** 讒(他動四段) よこごとする。●讒言する。(萬葉)

**よこす** (他動四段) おこすに同じ。送り來らする。

**よごす** (他動四段) 汚す。

**よて** (副) よりての略。

**よてい** 豫定(名) 兼てより定むる事。△(動)—豫定す。

**よあかし** 夜明(名) 夜を明かす事。●徹夜。●徹宵。

**よあけ** 夜明(名) 夜の明くる時。●曙。●天明。

**よあみ** 夜網(名) 夜中網を打つ事。

**よさり** (名) 夜。●今夜。○源氏「其よさり亥の子の餅まゐらせたり」

**よさりつかた** (名) よさりに同じ。

**よさむ** 夜寒(名) 〔一〕秋の半頃まだ晝は寒からずして夜のみ寒き事。〔二〕寒夜。

**よさん** 豫算(名) 豫定したる計算。△(動)—豫算す。

**よさま** (名) よきさま。●よき方の事。●よきやう。

**よさす** (他動四段) 寄する。●託する。●任す。○祝詞式「皇御孫尊は豐葦原の瑞穗の國を平らけく安らけく知しめせとことよさしまつりき」

**よき** 斧(名) 刃物の名。斧の小さきもの。

**よき** 豫期(名) 兼てより心に約する事。●豫想。△(動)—豫期す。

**よぎ** 夜着(名) 寢道具の名。厚く綿を入れ袖を附けた

**よきぢ**（名）　よきみちに同じ。○萬葉「三輪の崎ありとも見にす波立ちぬ何くゆ行かむよきぢはなしに」

**よぎる**　過（自動四段）　其邊を通り過ぐる。●素通りする。（源氏）

**よきょう**　餘興（名）　集會などの後に興を添ふる爲のもの。

**よきょう**　餘經（名）　法華經の外の經文。（大鏡）

**よぎなし**　餘儀無（形。形言ク活）　外に爲んすべなし。●よんどころなし。●止むを得ず。

**よきみち**（名）　よけみち。○源氏「かの瀬はよきみちなかんなるを」

**よめ**　嫁（名）　（一）新に結婚したる女。●新婦。（二）吾子の妻。

**よめ**　夜目（名）　夜る見る目。●夜見たる樣子。

**よめ**　餘命（名）　老後の身命。●殘年。

**よめいり**　嫁入（名）　（一）嫁に行く事。●嫁する。●とつぐ。（二）婚姻の儀式。

**よめり**（名）　よめいりの略。

**よめがさら**　嫁皿（名）　（一）草の名。水邊に生じて白き花咲くもの。（二）貝の名。千島貝の一名。

**よめがきみ**　嫁君（名）　鼠の異名。正月にいふ祝ひ詞。

**よめな**　嫁菜（名）　草の名。野に生じて葉は菊に似。花は紫苑に似たるもの。春の若葉の時摘み取りて食用とす。

**よめぐり**　夜巡（名）　夜まはり。（空穗）

**よめご**　嫁御（名）　嫁の尊稱。

**よみ**　訓（名）　漢字の和訓。……音に對して云ふ。

**よみ**　讀（名）　讀む事。●讀方。

**よみほん**　黄泉（名）　死人の靈魂の行く處。●黄泉。●冥途。

讀本（名）　（一）小說本の一種。草雙紙の如く畫の多からぬもの。京傳馬琴などの作の類。（二）學校用文章の教科書。●とくほん。

**よみち**　夜路（名）　夜中道を行く事。

**よみぢ**　黄泉路（名）　冥途の道。●黄泉。

**よみかた**　讀方（名）　（一）讀む方法。（二）讀む樣子。

**よみがへり**（名）　（一）よみがへる事。（二）基督教にては特に耶蘇の復活を云ふ。

**よみがへる**　蘇（自動四段）　死して又生きかへる。●復活する。●蘇生する。●蘇する。◎黄泉より歸るの意。

**よみかき** 讀書(名) 讀む事と書く事と。●讀書と習字と。

**よみうり** 讀賣(名) 當時の出來事を刷物にして讀みながら賣りあるく事。

**よみうた** 讀歌(名) 詠歌。……歌ふ歌に對して云ふ。

**よみくち** 讀口(名) 和歌の上手。●和歌の上手のたち。(十六夜日記)

**よみくせ** 讀癖(名) 普通の讀方の外にある特別の讀方。

**よみや** 夜宮(名) 祭禮當日の前夜に行ふ小祭。

**よみあはせ** 讀合(名) 双方讀み較べて誤の有無を正す事。●校合。

**よみあぐ** 讀上(名) 人に對して高聲に讀む。●朗讀する。

**よみきり** 讀切(名) 〔一〕讀み終る事。〔二〕其書冊丈にて完結する事。

**よみきる** 讀切(他動四段) 讀み終る。

**よみびと** 讀人(名) 和歌の作者。

**よみもの** 讀物(名) 讀書。

**よみせ** 夜店(名) 夜中に張る店。

**よみす** 嘉(他動サ變) 好しとする。●賞美する。●賞譽する。

**よし** 葭(名) 草の名。葦(あし)の異名。◎音の惡しと通ずるを忌みて善しと言ひ替へたる詞。

**よし** 由(名) 〔一〕由緒。●由來。●わけ。●故。●趣。〔二〕何か子細のあるらしきといふ意にて。◎品位、風采などいふ事に用ふ。○紫日記「故もよしもうしろやすさも皆具する事に難し」

**よし** (名) 鳥の名。よしきりの略。(萬葉)

**よし** 善。良。好。吉(形。形狀言ク活) 正し。●全し。●めでたし。●貴し。●面白し。●よし。

**よし** (助動。形狀言ク活) 易し。○「書きよき筆」「讀みよく思ふ」

**よし** (助辭) 名詞または形容詞の後に置きて句調を流暢ならしむる詞。○「ほしきよし」「玉藻よし」

**よし** (感) よいよ。●えいほ。●儘よ。○古今「萩の露玉にぬかんと取れば消ぬよし見ん人は枝ながら見よ」

**よじ** 餘事(名) 餘の事。●他事。●外の事。

**よしろ** (自動) 寄りに同じ。○萬葉東歌「あぜそも今

宵よしろ來まさぬ」

**よしばむ**（自動四段）　由緒ありげに見ゆる。●品よく見ゆる。○源氏「木立などよしばめるに」

**よしど**　葭戸（名）　葭簾にて張りたる戸。

**よしはらすずめ**　葭原雀（名）　鳥の名。よしきりの一名。

**よじゃうしょう**　餘情（名）　詩歌などの字句以外に含まるゝ味。●餘韻。

**よしよし**（形。形狀言シク活）　由緒ありげなる。●上品らし。○源氏「御手いとよし〳〵しくなまめきたるに」

**よしよし**（感）　よしを重ねたる詞。●よいは儘よ。○謠曲「よし〳〵此大事を相傳する上は」と思ひ」

**よじつ**　餘日（名）　期限内に猶豫のある時日。

**よしづく**（自動四段）　由緒ありけに見ゆる。●上品に見ゆる。●熟達する。○源氏「けしきよしづきてなどぞありける」

**よしなに**（副）　女用文の詞。よき樣に。●然る可く。●宜しく。

**よしなし**（形。形狀言ク活）　〔一〕手段なし。●せん方なし。〔二〕たわいもなし。●無益な。●くだらぬ。〔三〕緣故無し。（雅）

**よしなしごと**（名）　くだらぬ事。●やくにも立たぬ事。●譯もない事。○徒然「日ぐらし硯に向ひて心に移りゆくよしなしごとを書いつくれば」

**よしなしものがたり**（名）　よしなしごとの談話。（狹衣）

**よしん**　豫審（名）　裁判にいふ詞。刑事犯罪の下調。

**よじん**　餘人（名）　餘の人。●外の人。

**よしんば**（副）　よしや。●たとひ。（俗）

**よしのがみ**　吉野紙（名）　紙の一種。極めて薄きもの。◎大和の吉野郡にて漉き出だす故の名。

**よしのざくら**　吉野櫻（名）　木の名。櫻の一種。花の一重にて白きもの。大和吉野の種。

**よしや**（副）　たとひ。○「よしや此身は碎くとも」

**よしや**（感）　よしとやとを重ねたる感詞。○古今「流れては妹脊の山の中に落つる吉野の川のよしや世の中」

**よしご**（名）　葭の芽。

**よしごと**　夜仕事（名）　夜爲る仕事。●夜業。●よなべ。

**よしこのぶし**　好此節（名）　都々一に同じ。昔しよしこ

のと云ふ掛聲を用ひたる頃の稱へ。

**よしゑやし**（副）よしや。●たとひ。○萬葉「よしゑやし潟はなくとも」

**よしゑやし**（感）よしに同じ。よいよ。●儘よ。○萬葉「馬替へば妹徒歩ならむよしゑやし石は蹈むとも我は二人ゆかむ」

**よしきり**　蔑切（名）鳥の名。蔑の中などに住みて絶えず鳴く小鳥。形は雀に似たり。●異名は。……蔑原雀。●行々子。

**よしめく**（自動四段）由緒ありげに振舞ふ。（源氏）

**よしみ**　好（名）親しみ。●情交。●情誼。

**よしず**　蔑簾（名）蔑にて編みたる簾。

**よび**　豫備（名）兼てより備ふる事。●準備。△（動）―豫備す。

**よひと**　世人（名）世間の人。●世人。

**よびとる**　呼取（他動四段）呼び寄する。

**よひとよ**　夜一夜（副）よすがら。●終夜。

**よびがね**　呼鐘（名）人を呼ぶ爲に鳴らす鐘または鈴。

**よびやうう**　餘病（名）餘の病。●外の病。

**よびつく**　呼付（他動下二段）呼び寄する。

**よびつぐ**　呼次（他動四段）甲の呼聲を傳へて乙を呼ぶ。

**よびつぎ**　呼接（名）接木の一法。生きたる木の枝を撓めて他の零木に接ぎ合せ。後その親木の幹より切り放す事。●よせつぎ。

**よびな**　呼名（名）〔一〕中古の頃女官などの本名を他人より呼ぶ事を失禮なりとして種々に呼び替へたる名。……其呼び方には種々あり。右近衛少將藤原季繩の女なれば右近と呼ばれ。和泉守橘道貞の女なれば和泉式部と呼ばるゝの類。〔二〕男の通稱。……八郎、吉兵衛の類。

**よびぶえ**　呼笛（名）呼子笛に同じ。

**よびすて**　呼捨（名）人の名に尊稱を加へずして呼ぶ事。

**よも**　四方（名）東西南北の四方。

**よも**（副）多分。●さだめて。●よもや……必ず下にじまじ等の詞を置きて推量の打消を示す。○「よも然らじ」

**よもつくに**　黄泉國（名）黄泉國。●冥途。（記）

**よもや**（副）よも。●多分。●さだめて。

**よもやま**　四方山（名）〔一〕四方の山々。〔二〕四方八方

の轉。◎處々方々。〔三〕轉じては種々樣々。○「よもやまの物語」

**よもやも**　四方八方(名)　處々方々。

**よもぎ**　蓬(名)　〔一〕草の名。葉は菊に似て香氣高きもの。春の頃その若葉を餅に和して草餅に作り長じて後はこれを製して艾となす。〔二〕重(かさね)の色目の名。表薄萌黄、裏萌黄。又表白、裏青。

**よもぎがそま**　蓬杣(名)　杣山の木の如く蓬の群がり生ひたる處。○夫木「たのめこし人の心は秋ふけて蓬が杣に鶉なくなり」

**よもぎがしま**　蓬嶋(名)　蓬萊山の一名。○夫木「古も名をのみ聞きしわたつみの蓬が嶋を尋れてしがな」

**よもぎふ**　蓬生(名)　蓬の生ひ茂りたる所。

**よもぎのや**　蓬矢(名)　蓬の幹にて作れる矢。禮記の故事より出でゝ惡魔を攘ひ天下を治むる武器の事に用ふ。

**よもぎのまろね**　蓬丸寢(名)　蓬生の宿にての丸寢。(源氏)

**よもぎのあと**　蓬跡(名)　灸點の痕。(隆信集)

**よもぎのしま**　蓬嶋(名)　よもぎがしまに同じ。

**よもすがら**　(副)　夜一夜。●終夜。

**よせ**　寄(名)　〔一〕緣故。●因由。○增鏡「一節二節のよせはありけん」〔二〕他より受くる信任。●名望。○源氏「一の皇子は右大臣の女御の御腹にてよせ重く」〔三〕寄席の略。

**よせい**　餘生(名)　老後の生命。●餘命。●殘年。

**よせばしら**　寄柱(名)　馬繫ぎの柱。(和名抄)

**よせづな**　寄綱(名)　船を陸に附くる時引寄するための綱。(萬葉)

**よせつぎ**　寄接(名)　接木の一法。よびつぎに同じ。

**よせぶみ**　寄書(名)　〔一〕人に寄する文書。〔二〕新聞雜誌等に對する投書。

**よせて**　寄手(名)　攻め寄する兵。○「寄手の大將」

**よせざん**　寄算(名)　數を寄せ合はする算術の一法。●加算。●加法。

**よせき**　響石(名)　毒藥の名。砒石の一名。

**よせき**　寄木(名)　寄木細工の略。

**よせせき**　寄席(名)　技藝を演じて人に見せ又は聽かする場所。

**よせきざいく**　寄木細工(名)　彩色又は材料の異なる木を集めて種々の模樣を造る細工。

**よせめ**　夜攻（名）　夜中の攻撃。●夜討。●夜襲。

**よす**　寄（他動下二段）　〔一〕寄らしむる。●よせかくる。●託する。●事よする。〔二〕集むる。●數を加へて一つにする。〔三〕物または書などを贈る。●神佛などへ寄進する。〔四〕喩ふる。○「竹に寄せて視のこゝろをよめる」

（他動四段）　よしにする。●止めにする。（俗）

**よすが**　（名）　〔一〕ゆかり。●たより。●よるべ。●縁故。〔二〕妻よりは夫を、夫よりは妻を云ふ。○源氏「娘どもゝ男子どもゝ所につけたるよすがども出で來て」

**よすがら**　（名）（副）　夜一夜。●終夜。

**よすてびと**　世捨人（名）　浮世を見捨てたる人。●僧侶。●出世。●桑門。●沙彌。

**よすぎ**　世過（名）　世渡。●渡世。

**よすみ**　四隅（名）　四角なるもの、角々。